



あそぶ

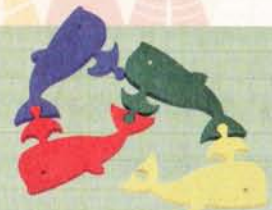


# 『あそぶ 木のアート展』報告集

編集:糸川孝一・高野訓子・門千穂  
撮影協力:佐々木弥生  
発行日:2020年1月  
発行:浜田市世界こども美術館  
助成:一般財団法人地域創造  
印刷:柏村印刷株式会社



# 木の アート 展 の 報告集



Hamada Children's Museum of Art  
浜田市世界こども美術館  
〒697-0016 島根県浜田市野原町859-1  
TEL0855-23-8451 FAX0855-23-8452  
<http://www.hamada-kodomo-art.com>

# 藤田伸 Fujita Shin



## 浜田の森と海

浜田は豊かな山と海に囲まれて、動物や魚がいっぱい。この作品の題材は、中国山地に生息するシカ・イノシシ・クマ・サル・キツネ、日本海で水揚げされたシラ・ノドグロ・ヒラメ、空を滑空するトンビ、そして人です。

素材は浜田産の4種類の木材、トチ・ホオ・サクラ・ミズメを使用しています。制作テーマは「つながり」です。動物や魚、鳥、人のつながりをお楽しみください。～作家メッセージより～

## 《浜田の森と海》に挑戦!

4種類の広葉樹はそれぞれ色味が違うのも特徴の1つです。トチとミズメは白っぽく、ホオは優しい緑色、そしてサクラはほんのり赤みがかった色をしています。藤田さんはこの自然の色の特徴を生かして、パズルのピースが隣り合わせになった時、美しい配色になる素敵な作品に仕上げてくださいました。

難しいパズルでしたが、中高生や大人の方々が夢中で体験している様子が印象的。人と共生する山と海の生き物に思いを巡らせながら、樹種の違いを知る発見にもなりました。



## お客様の声

- 浜田の森と海をモチーフにしたパズルが素晴らしいかったです。(50代・男性・山口県)
- 木のパズルがとても楽しかったです。木のおいぎよかったです。(30代・女性・広島県)
- 動物のパズルの切り口がつかるとどうやって作ったのか気になった。(30代・女性・葛田市)
- 作家の人のアートがすごく上手でした。パズルとかも家族と楽しめてよかったです。(10代・男性・松江市)
- 浜田の木で、浜田の動物や魚のパズルをつくるなんて、とってもステキですね。(20代・女性・浜田市)
- 日本のエッセイヤーですね。(30代・男性・浜田市)

## 17 オープニングイベント

10月12日(土) 9:30~10:30  
場所: 4階【第3展示室】

オープニングセレモニーでは藤田さんのテープカットで展覧会が幕開けしました。藤田さんから制作秘話や作品に込めた思いなどのお話を聞きながら作品を体験。連続模様が無限につながる不思議なパズルに感嘆の声が上がっていました。



## 《作家プロフィール》

1957年島根県松江市生まれ。  
多摩美術大学グラフィックデザイン専攻卒業。  
グラフィックデザイナー、有限会社リピーアート代表。  
多摩美術大学統合デザイン学科非常勤講師。  
装飾パターンにおける「くり返し」の仕組み(対称性)を研究し、論文や著作に著す。  
また研究成果をもとに様々な創作活動を行っている。



## 地域交流プログラム アーティストワークショップ

### クマのパズルコースター

日時:10月12日(土) 13:00~16:00  
場所:1階【創作室】 参加:幼児~一般 56人

出品作品《浜田の森と海》に出てくるクマを組み合わせたパズル型コースターに思い思いに色をぬっていききました。



## クロージングイベント

### 大蛇のカライドサイクル

日時:1月12日(日) 13:00~16:00  
場所:4階【展示室】 参加:幼児~一般 137人

中心からひっくり返すとくるくる絵が変わるからカライドサイクルづくりに挑戦! デザインは、浜田、そして『あそび木のアート展』にちなみ、木目調の大蛇です。須佐之男命に色をぬったら、くるくと巻きつく大蛇とバトル開始!



## Sukima.



### もりのあそびば

第4展示室はSukima.さんに、浜田の自然“もりのあそびば”をコンセプトに、インスタレーション作品を展開してもらいました。吊り下げられたモビールには、山や木々、生き物が表現され、薄暗い空間の中をライトで照らされた形の影が揺れています。床には自分がコマになって進む《ひとすごろく》。大きな山の間を抜けるクネクネ道を観覧者は行ったり来たり…。また、壁面には山や木々をイメージした緑色の三角のオブジェが舞う映像作品《カザビコ》が空間に色を添え、幻想的な雰囲気 연출しました。

「子どもにとって楽しく遊べるものが、親にとっても嬉しいものでありますように。」と想いを込めて活動されているSukima.さんの名前の由来は、Sukima.=スキマ=スキなものに囲まれている空間とのこと。その名の通り、こども美術館の空間も多世代の観覧者が交わり体験型作品と一緒にあそべる素敵な空間が広がりました。

## オープニングイベント

10月12日(土) 9:30~10:30  
場所:4階【第4展示室】

Sukima.さんから作品のあそび方をレクチャーしてもらい一緒に体験しました。工作コーナーでお話ししながら、ゆったりとアートに触れました。



### 【作家プロフィール】

10年以上Webデザインやグラフィックデザインに携わってきた後、2015年より「Toys like interior」をコンセプトに、インテリアのようなおもちゃや雑貨を作っている。自身の子供に使わせたいものづくりが出发点で、ママも子供も笑顔になれるような、片付けた後も飾っておきたいようなデザイン性のあるプロダクトが特徴。また、木を使ったプロダクトとスマホアプリとの連動で、遊びの可能性を広げる試みをしている他、遊びと学びが体験できるワークショップや美術館、百貨店等でも家族で楽しめるイベントを行っている。2017年、2019年ひろしまグッドデザイン賞奨励賞や、2019年GOOD TOY受賞。2019年に発表した積み木やマツミでは、伝統工芸に携わる木工職人の技術を活かした商品づくりを行うなど、デザインで職人の技術を再構築する取り組みも行っている。



作家	木を使って作品づくりをするようになったきっかけは？	木の素材の良さは？	こども美術館の印象は？	展覧会を終えて感想を一言！								
酒百宏一	きっかけは「葉っぱ」でした。豪雪地での作品づくりで過疎の住民たちを少しでも元気づけられたらと思い、枯葉を緑色の色鉛筆で紙に写し取り、枯れない「葉っぱ」で部屋を覆う作品をつくりました。葉っぱのみどりは住民たちの活力そのものでした。	今回私は木(樹皮、年輪、葉)のかたちをみんなで写す作品をつくりました。そのかたちはどこを切り取っても多様でとても美しいと思います。	とてもみなさん動かれているという印象です。たぶん互いのことをよく理解されて補い合い、スタッフみなさんの連携がよくとれているのだと思います。また来場者数の多さにビックリしました。それだけこどもたち(ご父兄)に魅力ある美術館として定着されていることに納得しました。	自分も浜田の木であそぶことができた展覧会だったと思います。新たに版画の手法で木を写すことやトレーシングペーパーで写すこと、また自分で木のアウトラインを描いたり、コラージュで木を描いたり。ある意味リラックスして臨めた展示でした。またスタッフのみなさんに助けていただき本当に感謝です。								
山本麻璃絵	彫刻学科で学んでいるころ、色んな素材で作品を作りました。 <small>素材との力関係</small> <table border="1"> <tr> <td>段ボール、粘土、FRP、&lt;&lt;&lt;</td> <td></td> </tr> <tr> <td>テラコッタ、石膏、鉄</td> <td></td> </tr> <tr> <td>石</td> <td>&gt;&gt;&gt; 自分</td> </tr> <tr> <td>木</td> <td>==</td> </tr> </table> 木だと、素材との力関係が五分五分だったのが良かったです。	段ボール、粘土、FRP、<<<		テラコッタ、石膏、鉄		石	>>> 自分	木	==	自由で不自由なのが良いと思います。素材としては加工しやすいけれども、読めない木目があったり、自分の意思だけでコントロールできないところが良いと思います。丸太は大概自分より年上の素材なので、いつも畏怖の念を抱いています。	こどもの為の美術館というのがまず素晴らしいと思います。東京は美術館の数はとても多いですが、こどもの為の美術館は無いように思います。夕陽の色がとても濃くて好きです。	こども達にとっても、神様の存在がとても身近である事はこの地の特徴だという事を感じさせられました。バイクを走らせた時の、山や木々の近さに、人間の領域と自然の領域について感じさせられました。浜田市世界こども美術館は2回目の展示でしたが、滞在制作を通じて地域の事を深く知れたように思います。
段ボール、粘土、FRP、<<<												
テラコッタ、石膏、鉄												
石	>>> 自分											
木	==											
ミヤコレグノ	イラストから飛び出して来たような立体作品を制作するというアイデアが浮かび、色々と素材を考え試行錯誤しましたが、木の色や加工のしやすさ、普段のイラスト制作で使う色がそのまま使えるなど、私たちの表現に一番合う素材が木でした。	自然の材料であること。木は作品になっても生きていて、呼吸をしています。温もりを感じるのもそのせいかと思います。そして不要になれば、燃えてなくなるか朽ちて土に還ります。プラスチックのように残るものではなく朽ちるといった点が、作品を毎日生み出し、制作活動を続ける私たちにとっては、ちょっと気持ち軽くなり、木を使う重要な要素の一つになっています。	色々工夫をされたプログラムで子供たちに体験しながらアートの楽しさを知ってもらう。私が子供の頃にこういう経験をすれば、燃えてなくなるか朽ちて土に還ります。プラスチックのように残るものではなく朽ちるといった点が、作品を毎日生み出し、制作活動を続ける私たちにとっては、ちょっと気持ち軽くなり、木を使う重要な要素の一つになっています。	個展などで作品を鑑賞してもらおうとは違い、今回初めて子供たちに手にとって遊んでもらう作品として制作しました。普段制作している作品とは目的が違うので工夫の仕方や、また、他の作家さんが制作した作品の子供たちが楽しく遊べる工夫がすばらしく、色々な面で勉強になりました。また、実際に子供たちが遊んでいる様子を見るのは、ちょっと感動しますし、違う刺激をもらいました。物を作る楽しさを知っている子供が増え、アートの世界だけでなく、技術者や研究者などがどんどん育って、楽しい世界を作ってほしいです!								
藤田伸	子供が通う保育園で玄関プレートを作って欲しいと声をかけられ、木工業者さんをお願いして玄関プレートと小さな玩具を納めました。それがきっかけとなり、以後、自分でもできる範囲で木を加工するようになりました。	身近で扱いやすく、美しく、人に安心感を与える素材です。人間の歩みを支えてきた素材なので敬意を払っています。この度は浜田の木材をご提供いただきありがとうございました。失敗して追加注文して申し訳ございませんでした。	子供連れの家族がくつろいで時を過ごす様子に驚き、1階の創作室で思う存分作って持ち帰る子供達に驚き、森と海が見渡せるロケーション、モダンな建物、走り回るスタッフたち、何から何まで驚きの連続でした。東京にはこんな美術館はありません。わが国が誇るべき美術館だと思います。	大型台風が関東直撃し空路欠航が相次ぐなか、絶妙のタイミングで浜田にたどり着きました。温かいスタッフ、楽しい出展者、親子連れの来館者たちと共に、夢のような時を過ごすことができました。本当にありがとうございました。スペースに余裕があったので、もっとたくさん作品を持っていけばよかったかなと反省しています。								
SAKURAI	インテリアのようなデザインの子供のおもちゃを作りたいだったので、生活の中で飾っても自然に馴染むこと、子供に遊んでもらいたい素材として、自然で温かみのある素材である木が最適だと思ったからです。	どんなところに置いても自然となじむこと、見ているだけでも心が落ち着くところ、冷たさのない温かみを感じられる素材であるところ。色、木目などの種類の豊富さや、加工性の良さも良いところだと思います。	こどもが触って遊べる美術館だなんて、最高に楽しい場所! 作家さんの作品を通して発見や楽しさ、学びを体験できる素晴らしい美術館だと思います。スタッフの皆さんの温かいおもてなしも印象的でした。	素敵な企画に参加させていただいて、本当にありがとうございました! 子供も大人も楽しく遊んでもらっている様子、本当に嬉しかったです。私共的にも新しい試みにチャレンジすることができて感謝しています。スタッフの皆さんのご協力なければ成し遂げられなかった展示だと思います。だんだん増えていくツリーでみんなで作り上げた展示でしたね!								

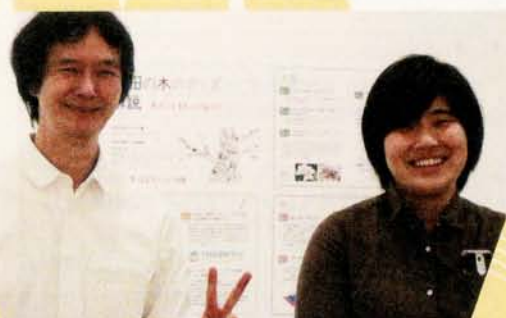


# あそぶ木のアート展

## 写真集 ～オフショット～

作家の皆さまをはじめ、浜田市内の林業、製材業、加工業など、地域の皆さまのお陰で好評の内に展覧会を終了することができました。これからも、地域を巻き込みながら、こども美術館と地域が一体となったアートプロジェクトを展開していきますので、引き続き宜しくお願いいたします。この度は、本当にありがとうございました。

33



### 展覧会を終えて

学芸員／高野訓子

浜田市世界こども美術館では「木のアートプロジェクト」を3年計画で立ち上げました。3年間にわたり「木のアート」をテーマに展覧会を行い、段階的にアートを介在として地域の活性化を図ることを目指し実施するもので、1年目の本年度は「あそぶ木のアート展」を中心に、様々な地域交流プログラムを行いました。

浜田市に占める森林率は82.2%。そのなかでも木材化が可能な森林の60%が広葉樹という全国でも有数の森が広がっている浜田市だからこそできることはないか。「木」と「子ども」と「アート」を結びつける有効な方法は何かなど、浜田市内の林業や加工業の専門家、国内外で活躍するアーティストたちと連携し、様々な方面から協議を繰り広げました。

そして導き出したのは、「浜田の広葉樹を使って、遊べる木の作品を作り紹介しよう」というものです。サクラ・ホオ・ブナなど数種類の樹種の中から、色や強度の違いを考え議論し、浜田にちなんだユニークな作品を考案、展覧会で紹介するという地域に根差した展覧会を実施することになりました。

ジグソーパズルのようにテーブル全体に大きくつなぎ合わせることができる浜田の森や海をテーマにした作品は、藤田伸さん、miagolegno(ミャゴレグノ)さんによって考案されました。大蛇がテーマになった彫刻作品を制作した山本麻璃絵さんは約1カ月間浜田に滞在し、民宿を拠点に乗ったり座ったりして木の感触を存分に味わうことができる作品を制作。アーティスト自ら浜田の地に入り込み、地域の方々と絆を深めながら生み出された作品です。酒百宏一さんも何度も浜田を訪れて、浜田の木を写し取るプロジェクトを行い、浜田の記憶と思い出を作品の中に閉じ込めてくださいました。《もりのあそびば》という空間の中に浜田の素材を取り入れステキな表現をしていただいたSukima.さん。5組の作家たちの表現方法が本プロジェクトに大きな勢いを与えてくれました。

また保育園に出張して木の魅力を伝えられるようなアウトリーチ活動を広く展開、週末には木を使った創作活動を実施することで、子育て世代を中心に、様々な世代の方々が本事業に参加してくださいました。木の魅力とアート表現の面白さを感じていただけたのなら幸いです。最後になりましたが、本展の開催にこの場をお借りしてご協力・ご参加いただいたすべての皆様感謝申し上げます。そしてこれからの2年間の展開にもどうかご期待ください！

34

